

ひきこもり等子ども・若者支援に関する調査についてのアンケート結果

子ども・若者に関する課題が多岐にわたるために、今後相談窓口に期待される内容を調査することを目的としてアンケートを実施しました。

★調査時期：平成 27 年 5 月

★対象者：県政モニター398 人

★回答数：349 人（回収率 87.7%）

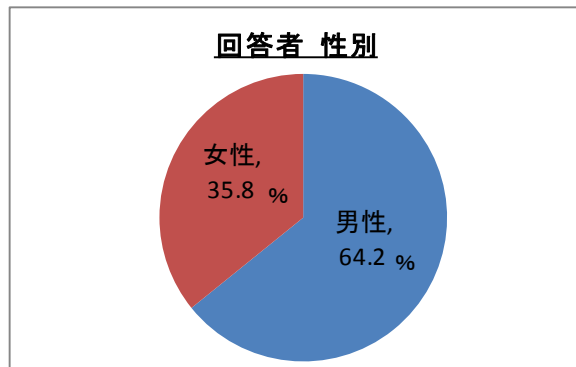
★担当課：滋賀県立精神保健福祉センター

(※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。)

【属性】

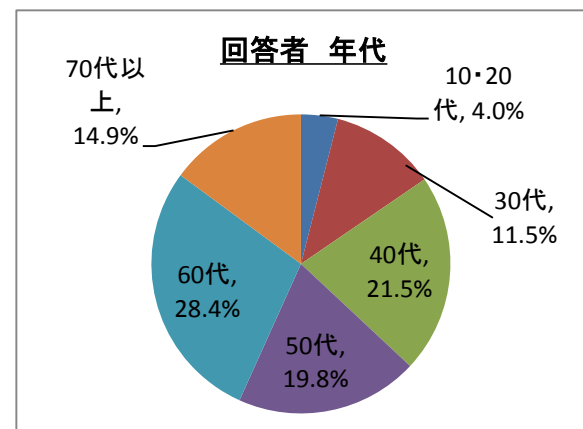
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	224	64.2
女性	125	35.8
合計	349	100



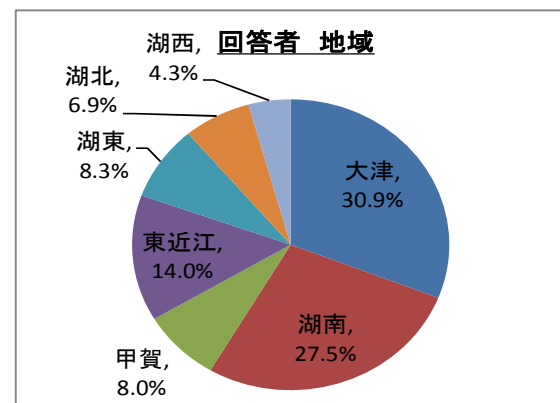
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	14	4.0
30歳代	40	11.5
40歳代	75	21.5
50歳代	69	19.8
60歳代	99	28.4
70歳以上	52	14.9
合計	349	100



◆地域

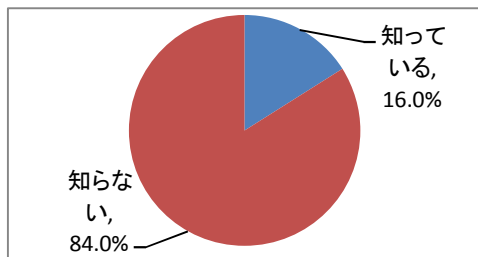
項目	人数（人）	割合（%）
大津地域	108	30.9
湖南地域	96	27.5
甲賀地域	28	8.0
東近江地域	49	14.0
湖東地域	29	8.3
湖北地域	24	6.9
湖西地域	15	4.3
合計	349	100



問1 「ひきこもり支援センター」を知っていますか。

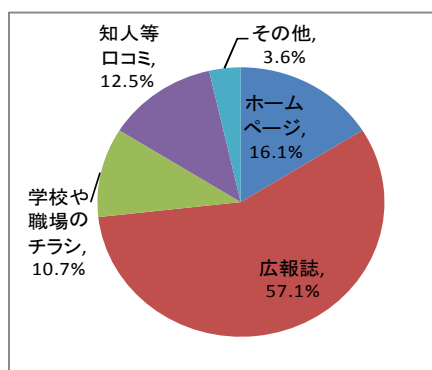
(回答チェックは1つだけ。 n=349)

項目	人数(人)	割合(%)
1. はい	56	16.0
2. いいえ	293	84.0
合計	349	100



問2 問1で「1. はい」と答えた方にお聞きします。どのようにして「ひきこもり支援センター」を知りましたか。(回答チェックは1つだけ。 n=56)

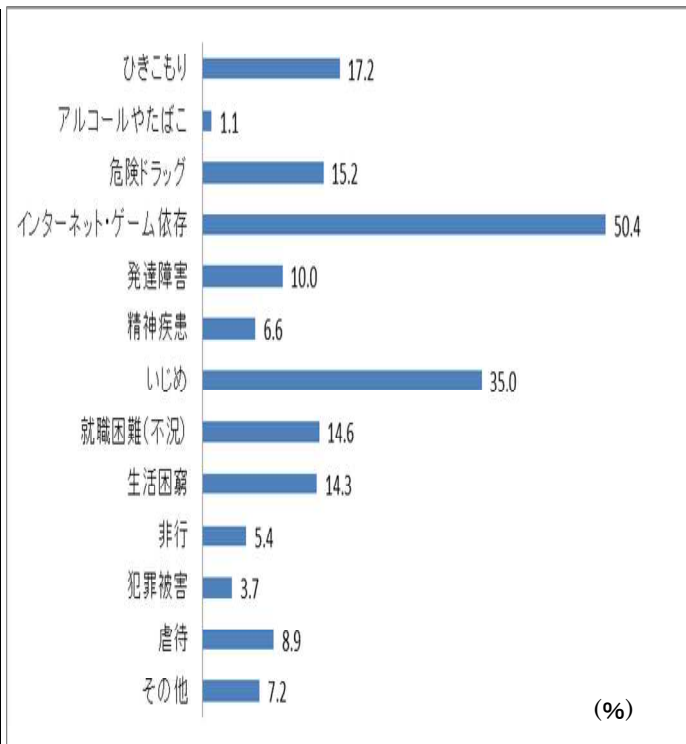
項目	人数(人)	割合(%)
1. ホームページ	9	16.1
2. 広報誌	32	57.1
3. 学校や職場のチラシ	6	10.7
4. 知人等口コミ	7	12.5
5. その他	2	3.6



問3 現代の子ども・若者に関する大きな問題は何と考えますか。

(回答チェックは2つまで。 n=349)

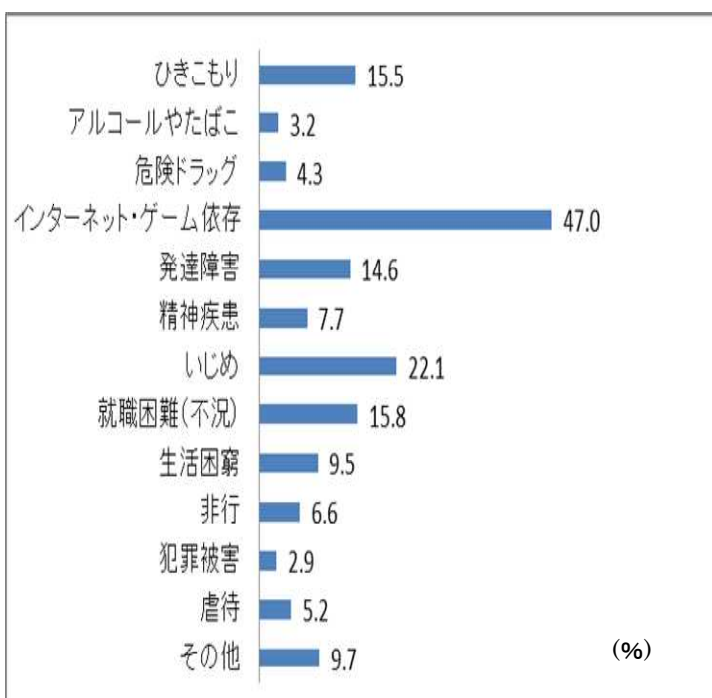
項目	人数(人)	割合(%)
1. ひきこもり	60	17.2
2. アルコールやたばこ	4	1.1
3. 危険ドラッグ	53	15.2
4. インターネット・ゲーム依存	176	50.4
5. 発達障害	35	10.0
6. 精神疾患	23	6.6
7. いじめ	122	35.0
8. 就職困難(不況)	51	14.6
9. 生活困窮	50	14.3
10. 非行	19	5.4
11. 犯罪被害	13	3.7
12. 虐待	31	8.9
13. その他	25	7.2



問4 あなたの身近にある子ども・若者の問題は何ですか。

(回答チェックは2つまで。n=349)

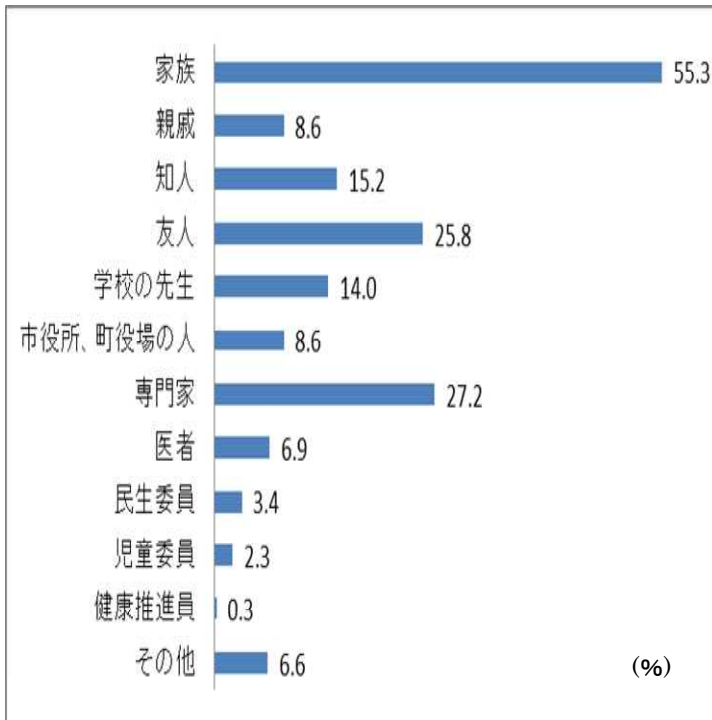
項目	人数(人)	割合(%)
1. ひきこもり	54	15.5
2. アルコールやたばこ	11	3.2
3. 危険ドラッグ	15	4.3
4. インターネット・ゲーム依存	164	47.0
5. 発達障害	51	14.6
6. 精神疾患	27	7.7
7. いじめ	77	22.1
8. 就職困難(不況)	55	15.8
9. 生活困窮	33	9.5
10. 非行	23	6.6
11. 犯罪被害	10	2.9
12. 虐待	18	5.2
13. その他	34	9.7



問5 あなたが子ども・若者の課題について相談する場合、相談しやすいと思う人は誰ですか。

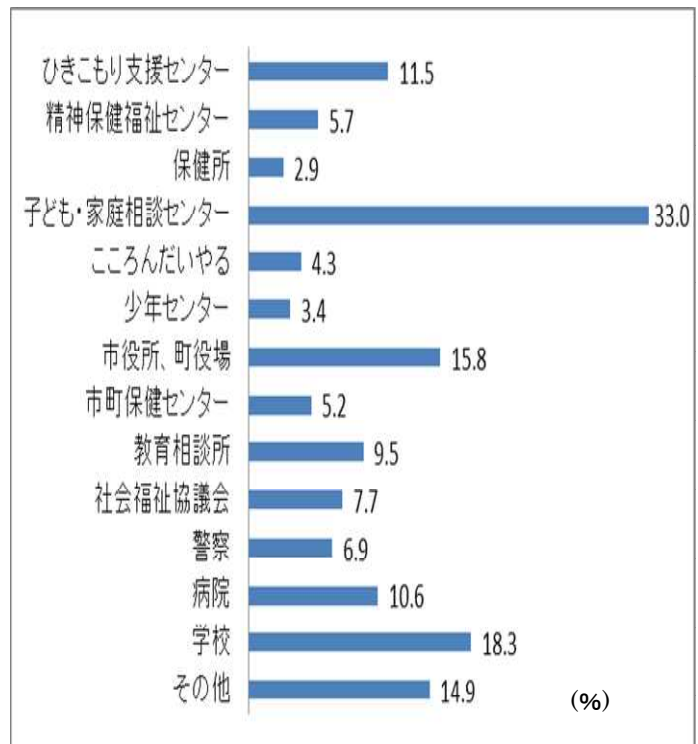
(回答チェックは2つまで。n=349)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 家族	193	55.3
2. 親戚	30	8.6
3. 知人	53	15.2
4. 友人	90	25.8
5. 学校の先生	49	14.0
6. 市役所、町役場の人	30	8.6
7. 専門家	95	27.2
8. 医者	24	6.9
9. 民生委員	12	3.4
10. 児童委員	8	2.3
11. 健康推進員	1	0.3
12. その他	23	6.6



問6 あなたが子ども・若者の課題について相談する場合、最も相談に行きやすい場所はどこですか。(回答チェックは2つまで。n=349)

項目	人数(人)	割合(%)
1. ひきこもり支援センター	40	11.5
2. 精神保健福祉センター	20	5.7
3. 保健所	10	2.9
4. 子ども・家庭相談センター	115	33.0
5. こころんだいやる	15	4.3
6. 少年センター	12	3.4
7. 市役所、町役場	55	15.8
8. 市町保健センター	18	5.2
9. 教育相談所	33	9.5
10. 社会福祉協議会	27	7.7
11. 警察	24	6.9
12. 病院	37	10.6
13. 学校	64	18.3
14. その他	52	14.9



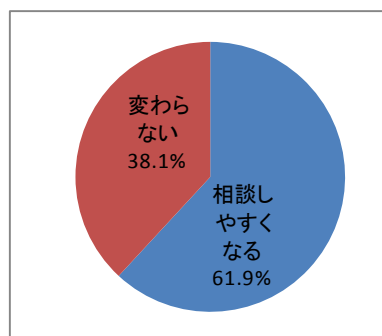
問7 子ども・若者の課題について相談に行きやすい相談窓口のイメージはどのようなものですか。(抜粋)

- ・なるべく他人と顔を会わせなくても良い予約制と何時でも大丈夫な駆け込みのどちらも対応して下さるところ。さらに言うなら、個室で可視化されているところ。
- ・一度目の相談から、最後まで相談者に対峙する対応が必要でしょう。
- ・相談窓口というか、子育て中のお母さん達が集えるようなコミュニティのようなものがあるといいのではと思う。
- ・相談窓口が色々なところと提携している。相談に行く人間が、本人の場合もあると思うので、その本人が相談しやすい雰囲気がある事。
- ・このことに関しては秘密を守ってくれる、このことについては連携をとってくれるという信頼感のある相談窓口が身近にあると理想的だと思います。
- ・実態を良く解って対応が出来ること。経験豊富な人材のいるところで具体的に適確に指導してもらえるところ。
- ・駅前などにあり、立ち入りやすいこと。
- ・あまり年の変わらない若い相談員がいて何でも話せそうな雰囲気や空気感があるところ。
- ・相談しやすい机とか椅子の工夫、お茶やコーヒの飲み物（リラックスさせるため）の準備、他の相談室や事務室に話が漏れないように防音効果の壁を工夫するとか必要ではないかと思われる。
- ・行政権限を有していること。行動が迅速であること。

- ・子どもの教育から就労支援までワンストップサービスで相談できる機関。
- ・相談窓口の担当者が、他の相談センターなどの守備範囲に精通されていて、最適の相談窓口を教えて頂けること。
- ・24時間相談できる。無料である（通話も無料）。プライバシーが完全に保護される。
- ・処置としてのいろいろなセンターがあるのは理解できるが、治療を目的とした相談窓口としての医療機関の準備が必要と思う。
- ・いろいろな場所があるのではなく、「悩んだらまずここへ」という第一次窓口があればそこへ行きたい。そしてそこで専門家を紹介していただけたらと思う。
- ・相談結果により対処をともに実践できる受け皿となるスクール（寺子屋や学習施設）などがあるところでなければ、理想論や叱咤激励だけで終わるようなところでは、返って本人や親達が追い込まれるだけになってしまう。
- ・大学生などが運営するNPO的なセンターかな。お兄さんお姉さんに聞いてもらうような雰囲気。
- ・相談できる人はいいが、やはり出来ない人をどうやって守っていくかが大切だと思うので、待っているだけでなくもっと訪問？というか窓口が困っている人のところに行けるシステムがあればいいと思います。

問8 子ども・若者の様々な課題について相談するための「(仮)子ども・若者総合相談窓口」があれば相談しやすくなると思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=349)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 相談しやすくなる	216	61.9
2. 変わらない	133	38.1
合計	349	100



問9 子ども・若者の課題について相談する窓口について、どのような名称がよいと思いますか (抜粋)

例

みらい あすなろ 最初の一步 よろず相談所 子供若者相談窓口

子供・若者サポートセンター、こころホットライン

子ども若者の何でも相談室 子ども若者広場

子ども・若者なんでも相談窓口 ひきこもり支援センターでよいのではないかと思います。

名称の問題でなく、中身とやる気・実行力が必要。

支援、ひきこもり、ニートというレッテル貼っているような文言は避けてほしい。

名称が設立目的と合致しており一目瞭然の名称(仮称の窓口名称でよい)

名称には特にこだわる必要はない。(看板のみ見てくれがよくても窓口職員の質が問われる)

シンプルに、1こども課、2こどもセンター、3こども窓口。相談という文字があるとなにか行きにくい。

問10 「ひきこもり支援センター」への要望などがありましたらお願いします（抜粋）

- ・ひきこもりになるのは個人的特性だけでなく周囲の環境、特に親の接し方にも大きな原因があるように思えます。
- ・学校にいけないこと、一人でいることなどに気づきながら手をこまねいて（ただ見守るだけのことも含む。）いないだろうか！
- ・始めて就学時を持つ父母に改めて、観察していて少しでもその兆候があれば専門の父母、子供、共に専門のカウンセリングを受ける義務を与えて見てはどうだろう。
- ・やはり、ひきこもってしまった若者の社会復帰を支援するべきだろう。そうなるまでの過程や親との軋轢をひもとき、親も子も自立して人と人として対話できるようになっていくべきだろう。
- ・病院との連携は必須かと。できれば格安で。病院は一回五千とかします。先生の長期診察できるのはほんの一部ですかね。
- ・どれだけのニーズがあるのかを明確にすべき。
- ・話しやすい環境を作っていただくことが重要ですね。役所の中というのは人の目があるなどの思い込みも出てきていくこと自体がためらわれることが考えられます。設置場所も重要ではないでしょうか？
- ・傍目にはひきこもりでも、本人にしてみれば、引きこもりとは言われたくないと思っているかと思えます。ひきこもり支援センターという名称ではなく、隠れた能力を発掘する場所といった明るいイメージの方がいいのではないのでしょうか。
- ・ひきこもりになる要因は、それぞれの環境等、バックグラウンドによって、かなり変わってくると思います。それに対応出来るだけの医師や、専門家を雇って対応しないと箱物だけを作っても何の意味もないと思います。優れたスタッフを配置する必要があると思います。
- ・ひきこもり支援センターの存在自体知らないし、場所も知らない。もう少し普及活動すべきだと思う。
- ・ひきこもりの対応は大変難しいと思います。原因が特定しにくいケースが多いのではないかと思います。
- ・家族の理解、周囲の理解は必要であり、いかに外へ連れ出すかが課題であり、自然との融合など時間をかけた取り組みが必要であると思います。ひきこもりに至るまでの経緯は個人それぞれに違っていると思われ、根気よく取り組んで頂くようお願いいたします。
- ・子供や若者の課題は、複雑化していつていきます。対応する方の専門性の向上にあわせて、関連課題の複合的な状況検討と支援策の具体的な方法を決めていく質の高い対応を期待します。専門家個人が対応できること、関連専門家で討議して対応するなど対応されているとは思いますが。
- ・新しいものを作るより、従来からある支援の縦、横の連携を深めていき、柔軟に対応出来るようにすることがとても重要だと思う。
- ・ひきこもりというのは本人はもちろんつらいと思いますが、家族はもっとつらいのではないかと思います。ひきこもりの人だけでなく、家族へのケアをしっかりとあげてほしいと思います。あと、解決までは長い道のりだとは思いますが、解決を目指して、長期での支援をしてあげて欲しいと思います。
- ・滋賀県の自然を生かした実際の野外活動施設などを併設した施設があればよい。
- ・引きこもりになってからの支援も重要ですが、引きこもりになるまえの予防的措置、対策にも力を入れてはどうでしょうか。

- ・本人が自身の人生を主体的に生きることを見守ってほしい。
- ・よく似た窓口がいくつかあり、選ぶのにわからない気がする。総合窓口があればいいかと思う。
- ・公的な支援は追い詰めることのない対応が欠かせないと思いますが、なかなか難しいことでしょう。後からの言い訳ばかりの行政機関にならないように、お願いします。
- ・センターでは、動物とのふれあい、ゲーム等を通じて意思疎通、次に単独でのモノ作り～複数人でのモノ作り等徐々に対人関係を増やしていくようなプログラムが必要と思います。
- ・センター内には、ネット関連のエキスパートを配置してもらいたい。相談を待つことも必要だが、積極的にネットの世界を巡回して、悩んでいる子どもたちを発見するというアプローチもあっていいのではないのでしょうか？
- ・これ以外の負の社会現象の大半の責任も企業に有ると思っている。
- ・ひきこもり支援センターはあまり知られていないように思う。学校との連携を深め、ひきこもりの親子とともに学校の先生を支援してあげてほしい。
- ・担当される方は形だけの受け答えをするのではなく、真剣に考えて適切な対応をしてくれる施設や専門家を紹介してくれるようにしてください。
- ・ひきこもりだけでなく、いろいろな事に対処できる場所であって欲しい。
- ・ひきこもりの要因は多種多様で、一つのセンターで解決できるものではないと考えます。また、子どもが一人で「ひきこもり支援センター」に行くことは考えられません。人に話せなくても文章で悩みを書いて子ども目安箱に投函するほうが楽な子もいます。相談する窓口は、様々な方法で子どもが相談しやすい窓口を設けることが重要です。
- ・私の居住地は滋賀県の北部ですが、地域性のこともあり相談窓口が少ないと思います。人口も少ないので行政側としてはしょうがないことだと思いますが、せめて出張窓口の回数を多くするのも相談しやすくなる一歩かと思います。行政サイドが予め対象範囲を特定せずに、誰でも何でも相談に応じますといった姿勢が重要かと思います。まずは相談を受けることが重要で、後は他の組織にふれば良いだけですから。
- ・小児科、精神科、保育士、看護師等々の、専門職の方は必須と思われ、かつ行政に通じた方が常時居られることが必要に思われる。また、自治会内の、民生児童委員や福祉協力員、健康福祉担当者などとの連携が密に行われること、そこではある程度細かな個人情報共有できることが必要である。
- ・ひきこもり支援センターは、ひきこもった子供やひきこもった子供を持つ家庭の相談窓口のみにとどまらず、そこから得た情報をもとに、子供の育て方のあり方や地域や学校のありかたの問題点を探し出して、今後の将来のあり方につなげていってほしい。
- ・民間人による定期訪問や民間の職業訓練校でのキャリアコンなど 定期的な繋がりとしてつなげられるサポート力。